アドベンチャーライドでギネス記録を持つ夫婦！

またまたお久しぶりです！　アメリカ在住、Adventure（以下ADV）Riderのjasmineです。今回は、ADVライダー界で、最も偉業を成し遂げた、SUPER夫婦ADVライダーの、特に女性ADVライダーに焦点を当てたインタビューを紹介したいと思います。

〈ギネス世界記録：チームによる長距離自動二輪走者〉
2002年5月12日～2005年5月までの間に、サイモンとモニカ・ニューバウンド（英国出身）は、アイルランドのダブリンから別々のバイクで50か国以上、計168800㎞を旅したギネス世界記録保持者。（ギネス世界記録オフィシャル・ホームページから引用、翻訳－jasmine）

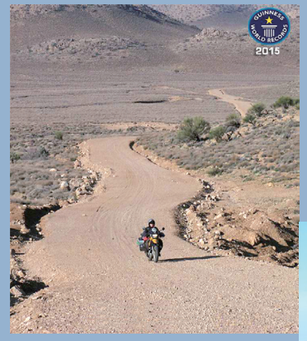
彼らの名前はサイモンとモニカ。出会いは今から遡ること3年前。2012年に私が初めてのアメリカ横断のADVライディングに挑戦中の時でした（ガールズバイカー

Monika Newbound
（モニカ・ニューバウンド）
40代（RTWツアー当時は30代）／
チェコ共和国出身／ジブラルタル在住
（＊ジブラルタル＝イベリア半島、スペインの最南端に位置するイギリスの領土。地中海を挟んで、アフリカ大陸が望め、天気が良ければ大西洋も見えます。重要な海上交通の役割を担っている場所です）
現在の彼女の所有バイク：BMW F650GS

トルコ西部

アラスカ州のDalton Highway（ドルトン・ハイウェイ）にて。延々と続くこの道路は414マイル（約666キロ）で、短い夏の間は多くのADVライダーに遭遇します

イラン、カヴィール砂漠



イランとアフガニスタンの国境付近

ライダーはモニカのご主人のサイモン。ってか、らくだが横を走っちゃってるよ！　どういう状況!?すごすぎる～（笑）

モンゴル、ゴビ砂漠

憧れのSuperHEROモニカと一緒にパチリ！　場所はスペインです

2013年4月号～12月号掲載記事参照）。
彼らとは、2015年6月号で紹介したシャーロン同様、SNSのフェイスブックを通じて知り合いました。
当時、私にとって初のアメリカ横断で、全てに慣れない私は「何でこんな挑戦する決心しちゃったんだろう…」と、道中辛くて後ろ向きになっていました。そんな時、いつもメールで励ましてくれたのがモニカでした。私の初アメリカ横断は、彼女の存在無しには成し遂げられなかったと言っても過言では無い程大きな存在で、私のHERO的存在なのです。6月末、幸運にもジブラルタル近郊に行く機会がありました。世界一興味のあるADVライダー夫妻で、私が4年間密かに抱き続けた「モニカとサイモンにいつか必ず会いたい!!」という夢が遂に実現したのです！

j=jasmine、M=Monika 、S=Simon（モニカの旦那様で、英国出身）、C=Michael（jasmineの旦那で、アメリカ出身）

j：モニカ、貴方にインタビューする日をどれだけ待ち焦がれていたことでしょう！　今凄くエキサイトしてる！　そしてドキドキもしてる！　ではまず、バイクの免許を取得したきっかけを教えて。
M：2002年ね。免許を取得する前に、私とサイモンのRound The World（以下 RTW…ADV界では非常によく使われる言葉）ツアーを計画し、2001年にサハラ砂漠でバイクのテストライドをして、バイクを体感してから全てが始まったわ。
j：え？　テストライドがサハラ砂漠!?!?
M：と言ってもモロッコ国内よ。主人のサイモンが既にバイクの免許を持っていたから、パッセンジャーでテストライドに挑んだの。
j：いやいや、スタートから凄すぎるよ～！　サイモンが既にライダーであることに影響を受けて乗ろうと思ったの?
M：それもあるわね。そして私の両親がサイドカー付きのバイクに乗っていたというのも影響された要因のひとつかしら。幼いころは妹と私がサイドカーにフィットし、ママがパッセンジャーシートに乗り家族総出でバイクを走らせていた記憶があるわ。それから、サイモンも私も旅行が大好きで、何か新境地を開拓しようと考えたときに、RTW・ADVライドかなぁって2人で考えたの。その後予定通りテストライドを終え、2002年に免許を取得したわ。
j：え？　え？　ということは、RTWツアーに備えて免許を取得したって事?
M：そういうことになるわね!
j：カッコいい！　偉大なる挑戦へのパッションが凄すぎる～!jこれまで何か国をバイクでADV旅したの?
M：今のところ全部で82か国を4年間に渡ってライドしたわね（ヨーロッパ全域、中近東、北米、アフリカ大陸、アジア）。
j：82か国!!!!???　凄～～～～～い!!!　その中で最もお気に入りは?
M：絶対にモンゴルね！　最低限の道路整備しかなされていなくて、永遠と続くオフロード、砂漠、そこから感じられたFREEDOMな感情、感覚はこの上なく美しいと思ったわ!
S&C：僕もやっぱりモンゴルだな!
j：みんな揃いに揃ってモンゴルですか！　そんな魅惑の地、私もいつか行ってみたいなぁ。ちなみにアメリカだけで何州に行きましたか?
M：アラスカ州を含む本土全てで49州ね。アメリカ滞在中に5回ほど横断したわ。
j：え…、ご5回!!??
S：6回じゃなかったか？　カナダも含めた北米全土だと6回横断したよ!
M：そうね、6回程ね。ハワイ州は行かなかったからハワイ以外の全ての州ね。
S：ハワイはそんなに走るところがないからね。
（と、サイモンの冗談も飛び出し、和気あいあいとインタビューは進みます）
M：アメリカ国内は美しい自然、山、砂漠、ビーチ、国立公園…、どこへ行ってもありとあらゆる全てが存在し、とにかく盛り沢山の物事が経験できる国だと思ったわ。1つを選ぶのはとても難しいけれど…。そうね～、その中でもやはりアラスカ州は最も印象深い州ね。
j：モンゴルといいアラスカといい、あなたはMiddle of nowhere（何も無いに等しい、広大な大自然の中）が大好きみたいね…。
M：あはは笑、そうみたいね!!!
j：モニカのADVライディングやバイクに対する感情と座右の銘を教えてください。
M：とにかくビッグチャレンジね。本当に私たちはラッキーだったわ。今まで見たことのない景色を目にし、多くの新しい人々に出会い、その国の先々で斬新な文化に触れる日々…。こんなユニークな経験をできたことは一生の財産だし、それを愛するサイモンと共有できたことが何より本当に嬉しかったし、有難い経験だった。

j：様々な経験とバイクへの思いを一言で表現するなら?（座右の銘は?）
M："UNSTOPPABLE"（誰にも止められない）
j：いやぁ～ん、COOL!!!　ところでどのくらいの期間、オフロードを走っていたの？　モンゴル、ロシア、カザフスタンは舗装されていない道路が大半だと聞いているけど。
M：6月当初から10月下旬の5か月間は基本的にオフロードを走っていたわ。もちろん所々舗装された道路にも遭遇したけれどね。
j：モニカ、オフロードを走ったのはこのRTWツアーが初めてだったんだよね?
M：そうね。出発前にトレーニングは受けていたけれど、実際に現地を走れば走っただけ練習になったわ。500km、1000kmと走行距離に並行して身体がオフロードの感覚を覚えたの。
j：今後、ADVライディングで行きたい場所は?
M：南アメリカは全て行ってみたいわ。オーストラリア、ニュージーランドにもまだ行ったことがないからぜひ行ってみたいしね!
j：世界の女性ADVライダー達をどう思いますか?
M：絶対にもっと必要だと思うし、彼女らに対して、もっとスポットライトを当てるべきだと思うわ。そして様々なメディアを通してそれらを目にした女性ライダーが感化され、興味を持ち、チャレンジしたいという思いを、身近な男性ライダーや家族が理解を示し、サポートする状況になれば素晴らしいと思うわ。きっと世界中には、ADVライドに挑戦したいと夢見る女性はたくさんいると思うから。
j&S&C（ひたすら頷く～頷く～頷く!!!）
j：RTWツアー中の2人の関係はどんな感じでしたか?24時間四六時中一緒に居て、喧嘩したり険悪なモードになったりしなかったの?
M&S：僕らはチームだから、ペースの遅い方に合わせて走るように心掛けたよ。"今日、ここまで行かなければならない"とうことは絶対に決めなかった。時間に拘束される考えを捨てて、急ぐことを回避し、その日の体調や気分に合わせてお互いのペースを尊重し合って走る。その日々の繰り返しの経験から、旅を終えた後の夫婦関係は更にお互いを大切に思い尊敬し合う気持ちが大きくなったと感じられるよ。
j：素敵！　旅を一緒にすると信頼関係が築けるってよく聞くけど、私たちもADVライドを共にして、過酷な状況を共に乗り越える事で、絆や信頼関係が深まったと思えるよ！　さてここからはくだけた質問をしてもいい?
M：笑…。いいわよ。
j：食というのは最もその国の文化を象徴するものの一つだと思うんだけど、RTWツアー中に食べた最も不思議、グロテスクだった食べ物は何?
M：忘れもしないわ、カザフスタンで食べた、牛の睾丸スープとヒツジの目玉煮込みね!
j：ひゃ～…
C：Cowチ○コ（マイケルが良からぬ日本語で絡みを入れてきました…笑）
S：モンゴルでは、馬のミルクから作られたチーズやお酒（ウォッカ）も印象深かったなぁ。
M：そうね、馬のミルク自体とても強い風味と香りがあって、特にチーズはもの凄く匂いが強くて。全ての料理がその影響を受けてた感じがあったわ。
j：では逆に、最も美味しい、Amazingと思った食べ物は何処の国？　そして何でしたか?
S：アメリカ、そして日本かな!
j：日本～、YEAH!
M：うん、日本は最高だったわ！　最もユニークな食べ物が沢山あった印象。どこのお店やレストランに行っても、いつも驚かされたわ。ひとつひとつ丁寧に箱に入っていたり、美しく盛り付けされていて。全てがアートで、食べるのを戸惑ってしまう程だったわ。あとは、メキシコで食べたメキシカンタコス、フィッシュタコスはとても新鮮で最高に美味しかったわ!
j：最後に、日本で特に印象的だった観光地はどこ?
M&S：奈良の東大寺、富士山、大阪城、そしてもちろん東京!
M：築地市場で食べた魚のスープは美味しくて忘れられない味だし、東京のご近所付き合いのあり方に感動したわ。日本人は本当にみんなとても親切だったわ!
S：東京の公共交通機関の凄さと便利さにも本当に驚いたね!

世界を旅した彼らの人柄、懐の深さは、チャットからもひしひしと感じていましたが、実際に共に時間を過ごし、本当に心温かい素敵な夫妻であることを心底確信し、夢のような時間でした。
いつ、何が起こるか分からないADVの旅、慣れない土地に足を踏み入れ、慣れない文化に溶け込み、現地の人々に敬意を払う…。柔軟な思考や謙虚な姿勢、笑顔を絶やさない心のゆとりなど、言葉なくしても彼らの人柄からそれらの事が必要なんだよ、という事を読み解くことが出来ました。人が人としてあるべき原点の姿なのではないかなぁと、再認させられました。
やはり世界はとてつもなく広く、興味深い人で溢れていますね。まだまだ多くの「会いたい女性ADVライダーリスト」が密かに私の中に存在しています。もし彼女らと会える機会に恵まれたのなら、その偉業なるjourneyを皆さんにお届け出来たらなぁ、と思っています。
living our dream, living my journey…
I will see you again soon!!!

Love Letter From USA!!

Girls Biker PARAVION

アドベンチャー
ADV
ガールズライダー♡
PICK UP!!

世界にはバイクで旅をする女子ライダーがたくさんいます。そんな彼女たちに焦点を当て、色々問いかけてみます！

PHOTO／Simon Newbound
TEXT／jasmine T Cardwell

jasmine T Cardwell

2006年にカリフォルニア州はサンディエゴに単身渡米。現在の旦那マイケルとの出会いをきっかけに2011年バイクの免許を取得。以来アドベンチャーライダーに急変身！　アメリカのライダー事情を中心にjasmine目線のアメリカを皆さんにお届けします

アドベンチャーライディングって？

何が起こるか分からない、どんな出会いがあるか分からない…。どんなに険しい山道も、砂漠も、森の中も、川の中も、大都会も、秘境の地も、如何なる天候であろうが、如何なるコンディションであろうが、Two-wheeler（自動二輪）に必要最低限かつ必要最大限の夢と希望を詰め込んで、世界中をどこまでもひた走る…。それがアドベンチャー・ライダー